

**第 3 回 那賀川左岸堤防地震・津波対策事業環境回復モニタリング委員会
議事概要**

1. 日 時：平成 26 年 12 月 8 日（月） 10：00～12：00

2. 場 所：阿南市文化会館（夢ホール）研修室 2

3. 出席委員：

湯城 豊勝	委員長	（阿南工業高等専門学校創造技術工学科教授）
乾 隆帝	委員	（山口大学大学院理工学研究科学術研究員）
大田 直友	委員	（阿南工業高等専門学校創造技術工学科准教授）
河口 洋一	委員	（徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部准教授）
木下 覺	委員	（徳島県植物研究会会長）
佐藤 陽一	委員	（徳島県立博物館自然課長）
武藤 裕則	委員	（徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部教授）
森本 康滋	委員	（徳島県自然保護協会会長）

4. 配付資料：

資料-1	議事次第
資料-2	配席表
資料-3	委員会規約
資料-4	那賀川左岸堤防地震・津波対策事業環境回復モニタリング委員会 資料

5. 議 事：

- （1）地震・津波対策事業について
- （2）台風 11 号によるワンドの変化について
- （3）環境モニタリング調査について
- （4）環境保全に向けた取組みについて
- （5）今後のスケジュール

6. 議事要旨：

(1) 地震・津波対策事業について

特に意見はなし

(2) 台風 11 号によるワンドの変化について

特に意見はなし

(3) 環境モニタリング調査について

①今年度の調査結果を昨年度の工事前の結果と比較すると、底生魚類は大きな変化がみられなかったことに対し、底生動物は種数、個体数の減少がみられた。特にウミゴマツボやカワザンショウ類等の小型の底生動物の減少が大きかった。

②今年度のモニタリング調査の結果は、工事の影響だけでなく 8 月の台風 11 号の大出水による影響も大きかったと考えられ、切り分けるのが難しい。今年度の結果を最低ラインとし、これからモニタリングがスタートすると考えると良い。

③出水後の悪条件下でも代償地には稚ガニの加入が散見された。よって、大規模な出水がなければ、干潟の造成等の代償措置の効果が十分期待できたであろう。

また、出水後もモニタリング調査までの間にシオマネキ（稚ガニ）の代償地への加入が認められるため、干潟の造成は効果があったと考えられる。

(4) 環境保全に向けた取組みについて

①代償地 1 の砂嘴は過去の航空写真により形成や消失の経緯を確認した上で、復元の必要性を考えると良い。なお復元する際には強固な構造物等を建設するのではなく、盛土に柔らかめの補強を行うことや、砂嘴が自然に延びるのを誘導するような工夫をすると良い。

②代償地 1 の+0.8m に嵩上げた箇所は砂の堆積がみられるため、泥に置き換えた方が良い。今年度のシオマネキの加入状況から、地盤高は+0.6m 程度に再調整すると良い。

③代償地 2 の堤防前面は、増水時に流速が速くなるため、緩和するような対応策が必要と考えられる。具体的には、堤防前面に土嚢を設置する、ヨシ原の再生を促進するようにヨシの根茎を埋める等の対策を行うと良い。出水によって泥が流出した部分は、すぐに埋め戻さず、今後の状況の変化について経過観察を行うと良い。

(5) 今後のスケジュール

①来年度の調査計画は今年度と同様で良い。また今後は委員との連携を深めて事業の評価を適切に行うとともに、調査内容を簡易にして回数を増やす等調査内容の見直しについても検討していくと良い。

以上の議事を踏まえ、今年度のモニタリング調査結果及び環境保全に向けた取組み内容、来年度のモニタリング調査計画及びスケジュールは了承された。

以 上